

アクロヨガモントリオールイマージョンが アジア初となる丹波市で開催



講師のジルさん（写真左）とユージーンさん（写真右）によるヨガの披露に盛り上がりを見せる地域住民ら

5月3日から5日間、アジア初の試みとして青垣地域でアクロヨガのイマージョンが開催されました。アクロヨガはカナダ発祥のアクロバット・タイマッサージ・ヨガの3つの要素がミックスされたヨガ流派のひとつで、イマージョンはトレーニング合宿のことを言います。期間中には講師、受講生らと地域住民の交流を兼ねた見学会が行われ、曲芸的な動きの数々に会場は盛り上がりを見せていました。

120メートルに渡る九尺ふじの藤棚 白毫寺で4年ぶりにふじまつりが開催



ライトアップされた九尺ふじを鑑賞する見学者ら

4月22日から5月7日まで、市島地域の白毫寺で「白毫寺ふじまつり」が4年ぶりに開催されました。見頃がゴールデンウィークと重なり、公開を心待ちにしていた大勢の観光客らが県内外から訪れ、全長約120メートルにもおよぶ藤棚の下を散策しながら写真を撮影するなど、幻想的な風景を楽しんでいました。

見学者の一人は「ふじが降り注いでくるような感じで幻想的。この景色が見れるのをずっと待っていたのでうれしい」と話しました。

林市長や農家らと意見交換 齋藤元彦知事が市内有機農場を視察

4月18日、齋藤元彦^{もとひこ}知事が有機農業など産地づくり推進の取り組みなどについて視察するため、丹波市を訪れました。市や有機農業研究会との意見交換を行った後、市内のほ場を見学。

齋藤知事は「有機農業については人材育成やノウハウの共有が大事。機会があれば農の学校^{みのり}も視察したい」と話しました。



有機栽培のニンジンを使ったジュースで乾杯をする齋藤元彦知事ら（写真左）

姉妹提携都市を結ぶケント市、オーバン市と オンライン会議を開催

4月25日、平成30年8月に姉妹都市提携を結んだアメリカ合衆国のケント市、オーバン市の両市の市長と林市長が、オンライン会議でお互いの近況や若き親善大使の派遣事業について話し合いました。

オーバン市のバックス市長は「若き親善大使の派遣事業が再開され、両市の交流が引き続き行われることは楽しみ」と話しました。



ケント市、オーバン市の両市長らと話す林市長（写真左）

まちづくりへの学生参加や関係人口増加をめざし 関西学院大学建築学部と連携協定を締結

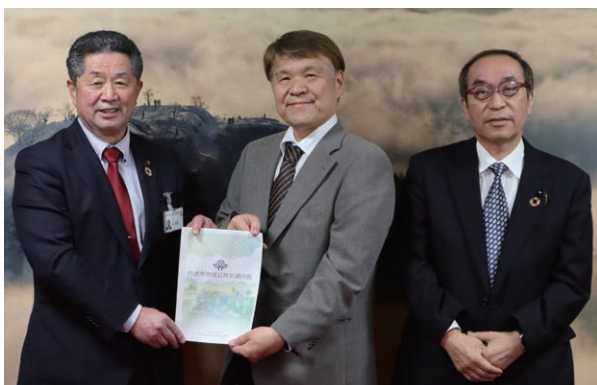


柏原スタジオの前で協定書を手に記念撮影する林市長と八木学部長（写真右）

4月6日、まちづくりへの学生参加や関係人口の増加をめざし、関西学院大学建築学部と市が連携協定を締結しました。関西学院大学はこれまで柏原市街地でフィールドワークを行ってきました。今回の連携協定を契機に全市的に活動を広げていきます。

八木康夫学部長は、「丹波市は長年活動してきたフィールド。引き続きしっかりと学びの目を培う場にしていきたい」と意気込みを語りました。

公共交通サービスの維持・発展に向け 丹波市地域公共交通計画を策定



丹波市地域公共交通計画を林市長に手渡す北川会長（写真中央）と、大野副会長（写真右）

丹波市地域公共交通活性化協議会が、利便性と持続性のある公共交通サービスを維持・発展させるための基本的な方針を示す「丹波市地域公共交通計画」を策定し、4月14日、市長に報告しました。

同協議会の北川博巳会長は「それぞれの交通機関で役割を分担することが重要。市にも計画実現に協力をお願いしたい」と話しました。

丹波市消防団初出式 4年ぶりに地域の防災力が結集

4月16日、令和5年度丹波市消防団初出式が行われ、約280人の団員が丹波の森公苑に集結しました。

西垣毅団長は「団員全員が同じ志を持って消防活動にまい進し、地域防災においてさらなる貢献をしていきたい」と訓示し、地域防災の要として消防団員が一致団結して地域の安全を守る覚悟を胸に刻みました。



初出式に参加し決意を新たにする消防団員ら

三菱電機社会インフラ機器株式会社 丹波市初の「くるみん」認定

三菱電機社会インフラ機器株式会社が丹波市に本社機能を置く企業として初めて、厚生労働省から「くるみん」の認定を受けました。くるみんは子育てサポート企業として、事業主が策定した行動計画に定める目標を達成し、一定基準を満たした場合に認定を受けるものです。

福富幸雄取締役社長は「引き続き丹波地域の模範となるよう職場環境の改善に取り組む」と決意を新たにしました。



認定証を手に笑顔をみせる福富取締役社長（写真左）